

【授業改善推進プロジェクト】

ICT を活用した探究的な学びの推進

実践例 2

■ 対象: 高校 3 年生（美術Ⅱ選択者）

■ 単元: 「なりきって新作！」（生成 AI を使った画像模写による作家理解・芸術文化理解の学習）

1. 授業改善アプローチ（インプット&基礎定着）

◆ 視覚的・直感的な学びへの変換

本校生徒の「考えや思いの言語化・文章化が苦手」という課題に対し、従来の言語中心の解説から視覚的・直感的なアプローチへ転換。作家の立場や思想を理解する前段として直感的気づきを促す学習構造を確立しました。

◆ 視覚的・直感的な学びへの変換

作家を理解しないまま追体験作品を描く困難さを解消するため、AI ツールで画像生成する試行錯誤を導入。生成過程で過去作品を多数観賞し、作品の造形的特徴やスタイルに直感的に触れる土台を構築しました。

2. アウトプット主体の探究型アプローチ

【探究活動 A】芸術家になりきった『今晚の夕食』の AI 画像生成とプロンプト記録

過去の芸術家を 1 名選択し、その人物になりきって「今晚の夕食」をテーマとした新作を構想。AI ツールへ言葉（プロンプト）を入力し、試行錯誤しながらイメージする画像を生成しました。プロンプトとして投げかけた言葉自体が作家の「造形的特徴」に該当するため、何を意識して言葉を入力したかを記録・整理させました。

【探究活動 B】生成画像の「模写」と Instagram に見立てたハッシュタグ整理と思想の語り

生成された AI 画像を自らの手で「模写」することで、作家の筆致や造形的特徴を身体的・直感的に追体験させました。さらに成果物を Instagram への投稿に見立て、作品の特徴を「#（ハッシュタグ）」で要約させるとともに、AI に「○○になりきって焼き鮭について語らせて」等の出力を行わせることで、作家の思考や哲学までも深層から追体験させました。

3. 発表会・成果報告ポスター展示

教室の掲示スペースやモニターを活用して、生徒一人ひとりが作成した模写作品や Instagram 風成果物を互いに紹介・鑑賞し合いました。



AI 生成画像の「模写」作品

4. 授業改善プロジェクトの成果と今後の展望

● 視覚的・直感的アプローチによる学習意欲と楽しみの向上

考えや思いの言語化に課題を抱える生徒にとっても、AI を用いて自らのイメージに引き寄せる画像生成作業は非常に魅力的であり、主体的に楽しんで課題に取り組む姿勢が顕著に見られました。

● 生成 AI との協働および模写を通じた作家思想・造形的特徴の「追体験」

プロンプト入力の試行錯誤、ハッシュタグ（#）での要点化、AI による作家になりきった語りの出力、そして模写の実践が相乗効果を生み、本当にその作家になりきったような深い作家理解・芸術文化理解を達成しました。

● 今後の課題と展望：プロンプト記録の徹底による造形的特徴の意識付け強化

AI に適切な言葉を入力していく過程で、入力語句を十分に記録させきれなかった点が課題として残りました。今後はワークシートの改善等により入力過程の記録を徹底し、造形的特徴のより確実な意識付けと振り返り学習を促します。